



鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第72号

2014年11月2日

社叢インストラクター養成セミナー

社叢を科学的に知る知識を習得 11月と1月に京都周辺で

植物同定法や植生調査、歴史講義も

社叢学会では、地域の財産である社叢の貴重さや歴史、現状を熟知し、保護・管理ができる「社叢インストラクター」の養成と資格認定を行ってきたが、今年度も下記の通り、第10回社叢インストラクター養成セミナーを開催する。

資格の取得には、かなり高度な植物学的知識と経験が要求されるが、本セミナーは基礎知識の習得を目指すもの。まず、樹木の同定は森を知る第1歩であるが、経験を積むことが何より求められる。今回は、どこを見れば同定しやすいのかなど、専門家の手法を聞いた後、実際に同定を試みる。また、社叢を科学的に知るための植生調査は、経験できる場が少なく、本セミナーの実習は得難い機会となる。これらは、資格取得を目指していな

くても、森林の構造や調査の仕方を知ることとなり、自然観察の場においても大いに役立つだろう。

受講資格：社叢学会会員であること
受講料：正・賛助・協力会員=1日5,000円 市民会員=1日6,000円(テキストを含む)

※ どちらか1日だけの受講も可能
定員：15人(3人に満たない場合は中止)
申込み：社叢学会HPに記載の出願用紙に記入し、11月25日(火)必着にて事務局(604-8115 京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号)あて郵送
※ 用紙は事務局にご連絡くだされば郵送いたします
※ 1/17の会場につきましては決まり次第、HPに掲載いたします

11月29日(土) 於：吉田神社参集殿		
10:00~10:15	参拝と日程説明	渡辺弘之・社叢学会副理事長
10:15~11:15	講義：社叢の歴史と文化	井上満郎・社叢学会副理事長
11:15~12:15	講義：森林と社叢	渡辺弘之
12:15~12:45	演習：社叢観察で注目すべき植物と同定方法	
13:30~16:00	樹木観察(関西定例研究会と合同)：吉田神社~岡崎神社	
16:00~17:00	演習：同定した植物の発表	
1月17日(土) 会場未定		
10:00~11:00	講義：都市の中の社叢	糸谷正俊・社叢学会副理事長
11:00~12:00	講義：社叢の評価と植生調査	前迫ゆり・社叢学会理事
12:45~15:30	実習：植生調査入門(調査の目的、方法、解析)、森林構造の調査(毎木調査と実生調査)	前迫ゆり・糸谷正俊
15:30~16:30	社叢カルテの作成	



見学会 京都大学芦生演習林

案内・解説： 渡辺 弘之(社叢学会副理事長・京都大学名誉教授)

今回は、渡辺弘之副理事長の案内・解説で京都大学芦生研究林を見学した。研究林は福井県と滋賀県に接する京都府北東部、由良川の源流域に位置し、広さは4,185.6ha、標高は355~959mで、標高600~800mの部分が全面積の約2/3を占める。1921年に共有地に99年の地上権を設定し、演習林としたことに始まる。標高640mの長治谷の積雪は2m近くにも及び、12月半ばから4月初めまで根雪に閉ざされる。

植物の種類は多く、確認されている種数は、木本植物(亜種含む)が243種、草本植物が532種、シダ植物が85種(HPより)。中でもアシウスギは、枝が雪の重みで垂れ下がり、着地部分から根を出して生育していくという雪深い地域ならではの形態をもつ。

9時に園部駅に集合し、マイクロバス車中で演習林を知り尽くす渡辺副理事長の説明を聞きながら約1時間をかけて演習林へ。途中、下谷でカツラの巨木を



カツラの巨木(胸高直径9.95m)の説明を聞く

見学、その存在感に圧倒された。さらにバスで長治谷テントサイトへ。その後は徒歩で、トチノキやスギなどの大木や、クマが冬眠に使う樹の洞

などを観察しながら木地師の生活跡が残る野田畑湿原を超え、由良川の始まりを目指した。

約3時間の行程で危機感と共に実感されたのは実生を含め下草の類がシカによってほとんど食べ尽くされているということで、防護柵設置



アシウスギ
枝が雪により垂れ下がっている

や銃器による捕獲等の対策が講じられてはいるが、今後、この原生林の姿を大きく変えることにもなりかねないと思われた。



由良川の始まりを囲んで記念撮影

また、地上権の終了が近づいており、地元と京都大学との協議が続いているが、この豊かな森を守る方向に向かってほしいと願いつつ、1日の行程を終えた。

また、地上権の終了が近づいており、地元と京都大学との協議が続いているが、この豊かな森を守る方向に向かってほしいと願いつつ、1日の行程を終えた。



都心に甦る鎮守の森 ー日本橋室町・福德神社を訪ねる

講師：真木 千明(福德神社宮司)

再開発により賑わいを取り戻し、のんびりと休日を楽しむ人たちが増えた中央区日本橋を訪ね、数日後に遷座を控えた福德神社の拝殿を一足早く見学させていただきながら、真木千明宮司にお話を伺った。
「流浪の神」 福德神社は、四周を高層ビルに囲まれた中に突然現れたオアシスのようで、建物から外へ出てきた人達が、惹きつけられるのか自然と神社のクスノキの下に集まってくる。由緒によると福富神社は貞観年間にはこの地に鎮座する千年以上の歴史をもつ神社で、森林や田畑に囲まれ稲荷の杜とも呼ばれていた。江戸時代には、二代将軍秀忠が「徳川」に「福」をもたらすめでたい神号であると喜び

参拝した折に、クヌギの皮付き鳥居に若芽が芽生えていたのを見たことから「芽吹き神社」と名付けた。富くじも行われ、神社は賑わいの中心にあった。その後、幕府により一度は廃社となり、町人たちにより再建されたものの、関東大震災、東京大空襲、さらには高度経済成長やバブル時の土地の買収などの度重なる災難にみまわれ、多くの住人が土地を離れ、残された人たちによって形を変えながら今日まで祀られてきた。

商人が行き交う賑やかな日本橋は、次第に銀行や証券会社のオフィスが立ち並ぶようになり、週末は人通りの少ないシャッター街へと変貌し、地価の高騰も受け、境内地はビルの屋上や居酒屋の店内などを点々と

することになった。

神社を中心に据えた街づくり 7年程前から始まった日本橋周辺の都市計画事業「コレド室町」では、ヨーロッパの街並みが教会を中心に展開していることも参考に、神社を中心に据えた街づくりが計画された。当初は2階に建てられることになっていたが、神社の隣の敷地が緑地として使用されることに決まり、一体感を持たせるため1階へと設計が変更された。2年後に緑地が完成すれば通り抜けができる鎮守の森となる予定だ。地下1階は公共駐輪場、地下2階には近隣のオフィス街の人達が3日間滞在出来る程の防災備蓄倉庫が備えられというハイブリット仕様である。随所にLEDライトが設置され、夜はライトアップもする。また、近隣に薬品や薬を扱う企業の本社も多く、薬祖神社が祀られる計画もある。

拝殿のある土地は三井不動産の所有で、神社は賃貸契約を結んでいるため、計画は主に企業中心で進められた。樹木の選定から社殿の建立に至るまで、神社側はほとんど関わっていないという。企業が建てた神社は高見神社(北九州市)について2例目ということだが、経済的な面では企業に頼らざるを得ない反面、住人がほとんどいない地域には氏子がおらず、祭りの組織を形成する点で課題が残される。

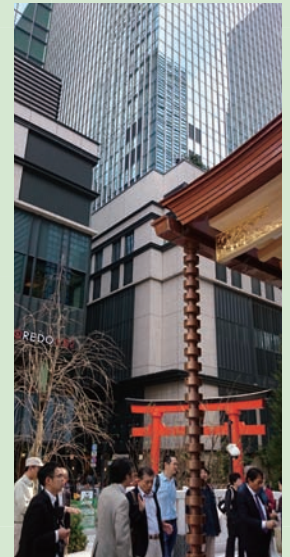
ちなみに、拝殿より通りを挟んだところには福德神社の所有する敷地があり、そちらは本宮として残り、拝殿は御分霊がお祭りされることとなっている。御遷座前ということで、特別に拝殿内の詳細を見学

させていただくことができた。ヒノキの立派な宮柱は表面部分のみで、耐震に関わる法律に基づき、基礎には鉄骨が入っている。シンボルとなっているクスノキは、北九州の黒崎から千葉の市原に一時移され、その後日本橋に運ばれたようだ。

これまで不遇な環境の中でも祭りが続けられてきたこのお宮に再び光が当てられ、「福德の神様は30年お休みをされてきたので、これからは存分に神威を発揮され、ますます御利益もあるでしょう」と真木宮司は笑顔で語ってくださった。

樹木の選定や日照条件など、鎮守の森の環境としては不安もある。会員からは、森づくりについて企業に対し神社側からも積極的に提案してはどうかという声も上がった。商業施設の中心に位置づけられた福德神社と鎮守の森は、人々の憩いの場であるとともに、地域活性化の一端をになっている。今回のケースが、都市と鎮守の森の共生の新たなモデルになり得るのか、今後もしっかり経緯を見つめていきたい。

(文責・渡邊 節子)



社叢のさまざまな意味と意義を紹介 中外日報が10/1に特集で

「…経済原理優先の社会の在り方が見直されつつある中、東日本大震災の被災からの復興を願って被災神社で植樹祭が始まるなど、社寺の森林が果たす役割を見直す動きが広がりつつある。」—こうした記事が10月1日の中外日報に掲載された。以下に記事の概要を掲載する。なお記事本文の切り抜きはホームページに掲載している。

コミュニティの核として 大阪府北部のベッドタウンで上新田天神社(豊中市)や垂水神社(吹田市)の鎮守の森が住宅建設計画の対象となった。垂水神社では、工事に必要な周辺用地の利用を拒み続けた結果、奇跡的に鎮守の森は守られたが、上新田天神社では、鎮座する丘陵を覆っていた社叢は切り開かれ、高層マンションがそびえている。一方で社寺林の持つ役割を見直す動きも生まれており、東日本大震災被災神社でも植樹祭が行われている。森は単なる樹木の集団ではなく、共生のシステムであり、様々な関わり合いが繰り返される縁起の世界でもある。

植樹祭で新たな和 八重垣神社(宮城県山元町)では一昨年6月に植樹祭が行われ、約530人のボランティアが21種約3,300本の苗を植えた。植樹祭の参加者が自分が植えた苗を見に来るなど、氏子だけではなく新しいつながりができている。

開発の波に飲まれ 前記の上新田天神社は大阪の千

里ニュータウンの一面にあり、境内林と一体をなしていた約4万㎡の竹林は全て伐採され、12階建てのマンションが建設されている。高層から神様を見下ろすようで、参拝者はマンションを拝んでいる態をなしている。建設計画に関する協議は自治会と開発業者の間で行われ、神社は「蚊帳の外」に置かれた。

また、四国では神木を薬剤によって故意に枯死させ、売却を迫るという事案も発生している。

鎮守の森の役割を 木々が作り出す空間の聖性が祭祀の聖性を守るために必要なものであり、神職は、経済的な感覚を優先するのではなく、長期間を視野に考えねばならない。鎮守の森の役割を発見し、議論して共有する場が求められており、「鎮守の森」という言葉は一般に知られている分、注目を集めやすく有効だ(櫻井治男・本学会理事・皇學館大學教授)。

縁起思想を学ぶ場 法然院(京都市左京区)の境内地の4/5は森で覆われている。この自然豊かな境内を人々に開放するために、1985年に「森の教室」を始めた。自然体験を通して、全ての事象はつながっており、人間と生き物の活動が重なり合って森の環境が生まれたという「縁起思想」を知り、文化・生活と密接に結び付いた環境を見つめ直すことを目的としている。また、必ず目的の動物に会える動物園と違って、森では何時間待っても見られないことがあるということを学んでほしいと願っている。

事務局から

- 今年度の会費未納の方には振替用紙を同封いたしました。何かと多端な折とは存じますが、社叢学会は会費で運営しております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。なお、12月末日までに入金の確認ができない場合は、「鎮守の森だより」等をお送りできなくなりますので、悪しからずご了承下さい。退会をご希望の場合は、会員番号とお名前をご記載の上、Fax・Mailでその旨、お知らせ下さい。

銀行振込もご利用いただけます。三菱東京UFJ銀行 京都支店 普通口座6720345 特定非営利活動法人社叢学会 理事長 藪田稔です。

- 下記の通り、『社叢学研究』13号への身近な活動報告などの投稿を募集しています。今回からは、社叢を訪れた時の感想なども、掲載

することにいたしました。小さな発見、残念な思い、どんなことでも結構です。ぜひお寄せください。

編集後記

しょぼかったなあ。。。由良川の始まり。。。事前に渡辺副理事長の「期待しないように」という前触れがあったから、滾々と清水がわき出る泉だとは思わなかったけれど、それにしてもなあ。。。2面の写真ではわからないって？朝6時半に家を出て(中には5時半出発のヒトも)、3時間近くを歩いた到達点がこれですよ、これ！



ま、途中の道の駅で美味しい美山町の牛乳で作ったソフトクリームもご馳走になったし、ええとするか。(藤岡 郁)

次回予告【第63回関西定例研究会】

- ◆日 時：11月29日(土) 13:30~16:00
- ◆場 所：吉田神社集合(左京区吉田神楽岡町30番地 Tel 075-771-3788)
- ◆テーマ：京都の社叢の植物(樹木観察)：吉田神社~大元宮~吉田山山頂~紅もゆるの碑~宗忠神社~陽成天皇陵~真如堂~金戒光明寺~岡崎神社
- ◆講 師：渡辺 弘之(社叢学会副理事長)

次回予告【第62回関東定例研究会】

- ◆日 時：12月20日(土) 14:00~16:30
- ◆場 所：國學院大学渋谷キャンパス120周年記念1号館4階1405教室
- ◆テーマ：鎮守の森には病気はない？
- ◆講 師：矢口 行雄(東京農業大学教授)

原稿募集中!

「鎮守の森の活動報告」(右記参照)の投稿締め切りは2015年1月9日(金)です。

各地の社叢を訪れた折りの紀行や感想なども1,200字程度でお寄せください。

* 書評欄では会員の皆さま方の著作を取り上げています。出版された方は、ぜひご献本下さい。

「鎮守の森の活動報告」

祭、音楽会、調査などの活動、抱える問題点などを1,200字程度でご報告下さい。手書きでも結構です。写真やイラストなどもお添え下さい。

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号
TEL075-212-2973 FAX075-212-2916
URL <http://www.shasou.org> E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp
社叢学会関東支部 〒368-0041 秩父市番場町1-1 秩父神社社務所内
TEL080-1514-5032 E-Mail shasou@hotmail.com